

平成 30 年 4 月 6 日

## 平成 29 年度福山大学での学修を振り返るアンケート実施報告書

大学教育センター教育開発部門

平成 29 年度の「福山大学での学修を振り返るアンケート調査」（以下、「卒業生アンケート」）を学内専用ポータルサイト「セレッソ」を利用して平成 30 年 1 月 18 日～3 月 21 日の期間で実施した。

調査項目は、「福山大学での学びを経て、入学前と比べてあなた自身はどのように変化したと思いますか？」という学修による変化（A：知識・技能面 5 項目、B：態度・精神面 9 項目）、「福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか？」という学生生活の満足度（6 項目）、「福山大学での学び全体を通して、あなたの満足度を % で表現すれば、次のどれに当たりますか？」、「あなたは、もう一度福山大学で学ぶ機会が得られるとすれば、何を望みますか、簡単に書いてください（自由記載）」という福山大学での学び全般に関する項目の計 22 項目で実施した。卒業生の回答率は 60.3%（対象者 640 名、回答数 386 名）であった。

### 【分析結果および所見】

#### （1）学修による自己の変化に関する解析：知識・技能面

下記の 6 項目について、入学前と比較した自己の変化について調査した。

1. 一般的な教養
2. 日本語の運用能力（表現と理解）
3. 外国語の運用能力（表現と理解）
4. 専門的知識・技能
5. コンピュータを用いた情報処理能力

#### （評価段階）

かなり向上した    少し向上した    変わらない  
少し低下した    かなり低下した    わからない

「専門的知識・技能」で51.8%（H 28 年度は 49.7%）の学生が「かなり向上した」と回答しており最も高い割合であった。続いて、「コンピュータを用いた情報処理能力」29.3%（H 28 年度は 27.1%）、「一般的な教養」26.2%（H 28 年度は 39.2%）、「日本語の運用能力（表現と理解）」19.2%（H 28 年度は 22.9%）であった。一方、「外国語の運用能力（表現と理解）」で「かなり向上した」と回答したのは、7.0%（H 28 年度は 8.5%）で最も低かった。学修による自己の変化に関する解析（知識・技能面）については、平成 28 年度とほぼ同じ結果であったが、一般的な教養については、昨年度に比べて13ポイント低下した。この低下は一過性の誤差範囲なのかあるいは何らかの原因があるのか今後解析していく必要がある。全体的にみると、専門的な知識や技能、情報処理能力、一般教養については、学修効果を実感している学生が相対的に多いことが示された。一方、外国語については学修効果を十分に感じていない学生が多いことが示された。レベルナンバーリング制が導入されるなど、外国語教育の改革が進行している。新しい外国語教育を受けた学生では、この項目の評価が改善されていることを期待したい。

## （2）学修による自己の変化に関する解析：態度・精神面

下記の9項目について、入学前と比較した自己の変化について調査した。

1. 協調性
2. 創造性
3. 意欲（やる気）
4. リーダーシップ
5. 他者を理解する力
6. チャレンジ精神
7. 知的面での自信
8. 社交面（人間関係）での自信
9. 自己理解

（評価段階）

<input type="checkbox"/> かなり向上した	<input type="checkbox"/> 少し向上した	<input type="checkbox"/> 変わらない
<input type="checkbox"/> 少し低下した	<input type="checkbox"/> かなり低下した	<input type="checkbox"/> わからない

「他者を理解する力」で 27.5%（H 28 年度は 27.4%）の学生が「かなり向上した」と回答しており最も高い割合であった。続いて、「協調性」25.9%（H 28 年度は 27.1%）、「意欲（やる気）」25.9%（H 28 年度は 21.9%）であった。一方、「リーダーシップ」で「かなり向上した」と回答したのは、14.8%（H 28 年度は 12.8%）で最も低かった。

「リーダーシップ」以外の8項目については、「かなり向上した」と「少し向上した」を合わせた回答率が 60%を超えており、自己に対して肯定的な評価を行っていた。一方、「リーダーシップ」については、肯定的な評価をした学生が低かった。学修による自己の変化に関する解析（態度・精神面）の結果も平成28年度と同じ傾向を示しており、これが本学卒業生の特性と言える

かもしれない。

### (3) 福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか？

下記の 7 項目について調査した。

1. 共通教育（一般教養）の授業
2. 外国語の授業
3. 専門分野の授業
4. これからのキャリアに対する授業内容の有効性
5. 教職員による学生支援体制
6. 大学の中での学生同士の一体感

(評価段階)

とても満足している    満足している    普通  
不満である    とても不満である    わからない

「専門分野の授業」で65.0%（H 28 年度は 70.3%）の学生が「とても満足している」および「満足している」に回答しており最も高い割合であった。続いて、「教職員による学生支援体制」53.4%（H 28 年度は 58.0%）、「これからのキャリアに対する授業内容の有効性」44.3%（H 28 年度は 49.0%）であった。福山大学での学生生活については、全般として肯定的に捉えている学生は多いことが示された。一方、「外国語の授業」27.2%（H 28 年度は 36.4%）については、授業に関する満足度は低いことが示された。学修による自己の変化に関する解析：知識・技能面における質問において、外国語の学修効果を十分に感じていない学生が多いことから、授業満足度が低いことと、学修効果を感じていないことについては相関していると推測される。この点については上述したとおり、外国語教育改革の成果を待ちたい。

### (4) 福山大学での学び全体を通して、あなたの満足度を%で表現すれば、次のどれに当たりますか？

(評価段階)

100% 80% 60%  
40% 20% 0%

「100%」と「80%」を併せて 57.5%（H 28 年度は 62.0%）であった。また、満足度 60%以上と回答した学生は87.6%であった。この結果は、卒業生は福山大学での学びに比較的高い満足度を示していると考えられる。この結果についても、平成 28 年度とほぼ同じである。

(5) あなたは、もう一度福山大学で学ぶ機会が得られるとすれば、何を望みますか？

#### 自由記載

200 以上の記載が寄せられた。語学のさらなる学び、専門性の向上、他分野へのチャレンジなど「学修意欲」にあふれた記載が多く見られた。また、大学に対する要望として「コンビニの充実」、「食堂の値段」などの記載があった。自由記載の内容は、学生の率直な意見・感想であり、真摯に受け止めて大学の改革、改善につなげていく必要がある。

#### 【総括】

平成29年度卒業の学生については、福山大学での学びにより自己の能力が向上したと判断しており、福山大学での学修についても概ね高い満足度を示していた。教員職員が取り組んだ教育改善の努力の結果であると考えられる。この結果は、平成 28年度の結果と同様であった。今後、e ラーニングや ICT 教育などをさらに拡充し、学生満足度と学修成果の向上を目指していくことが大切である。解析結果でも記載したが、外国語教育については満足度、自己変化の評価とも低い値を示した。この点については、平成 28 年度から導入された外国語教育改革の成果を期待したい。

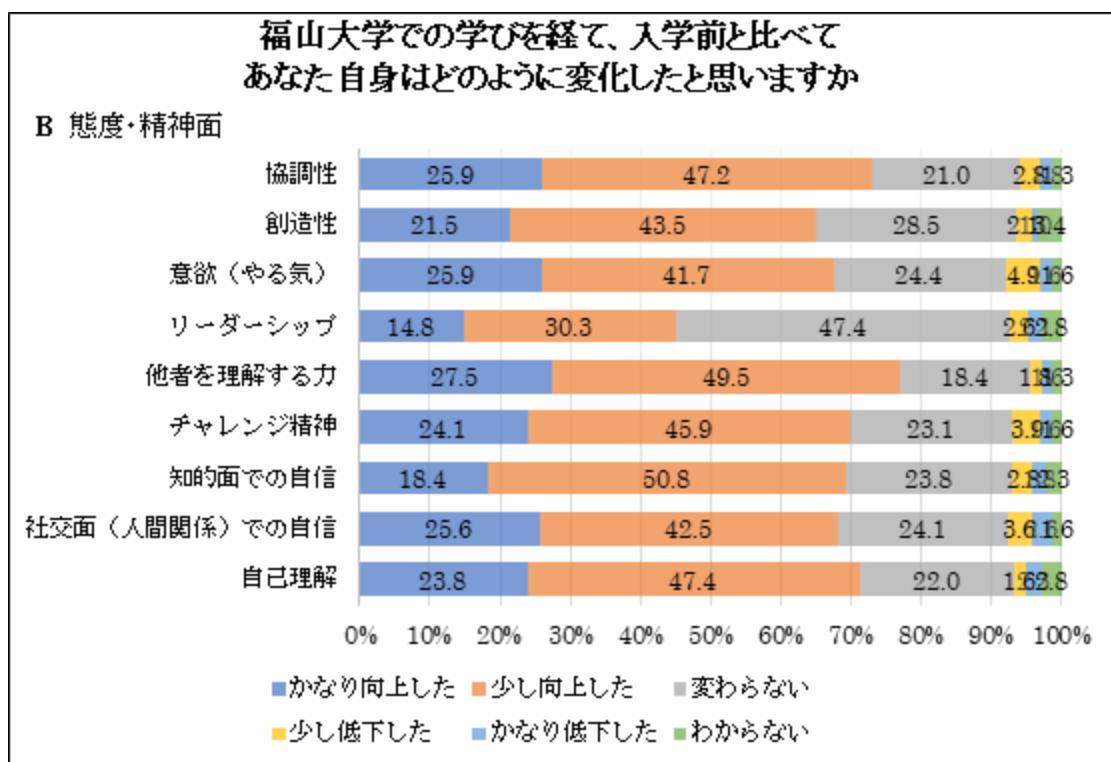
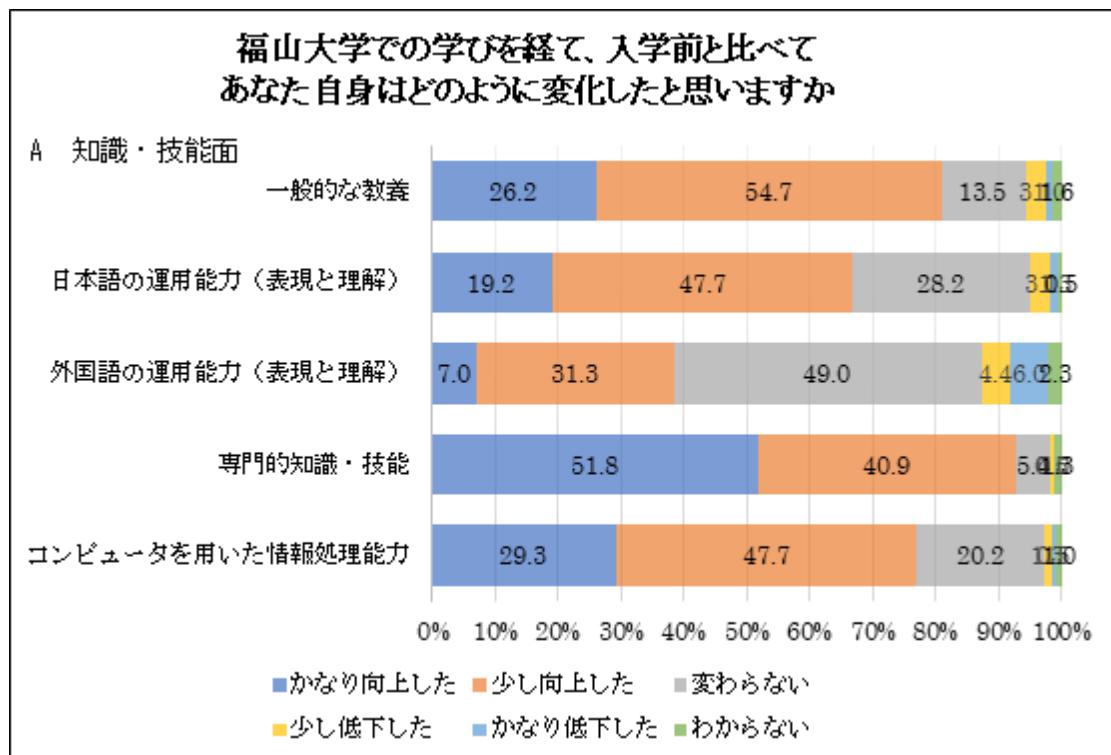
また、「コンビニの充実」、「食堂の値段」など学生の厚生施設の充実を図っていくことも学生満足度の向上に重要であると思われる。

大学教育センター長：大塚 豊

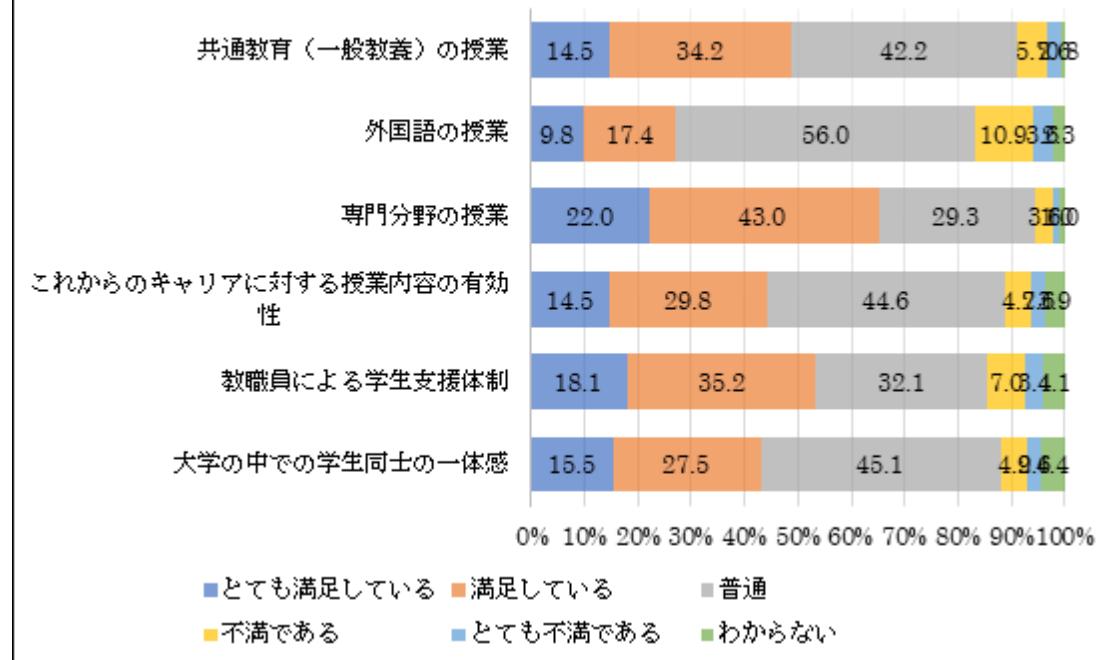
大学教育センター教育開発部門長：佐藤 英治

大学教育センター：日暮 美紀（データ集計・解析）

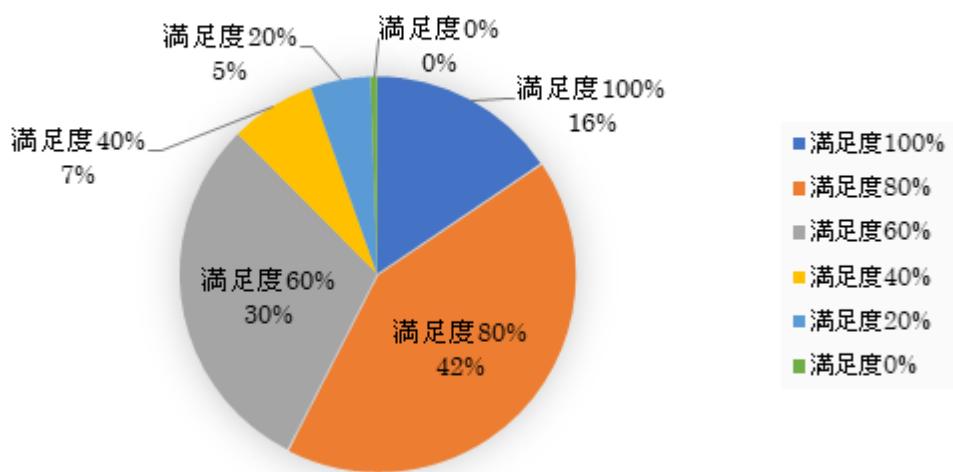
## 平成29年度福山大学での学習を振り返るアンケート集計結果



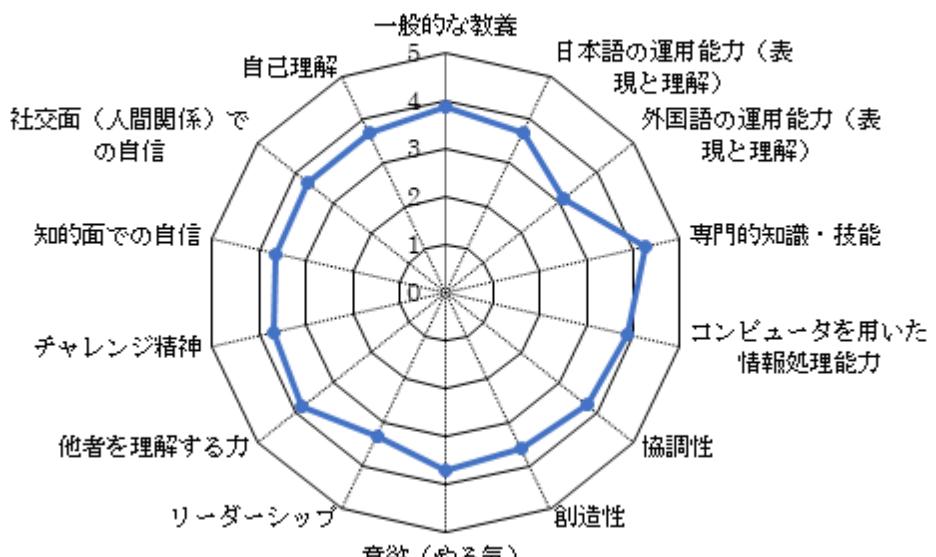
### 福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか



### 福山大学での学び全体を通して、あなたの満足度を%で表現すれば、次のどれに当たりますか？

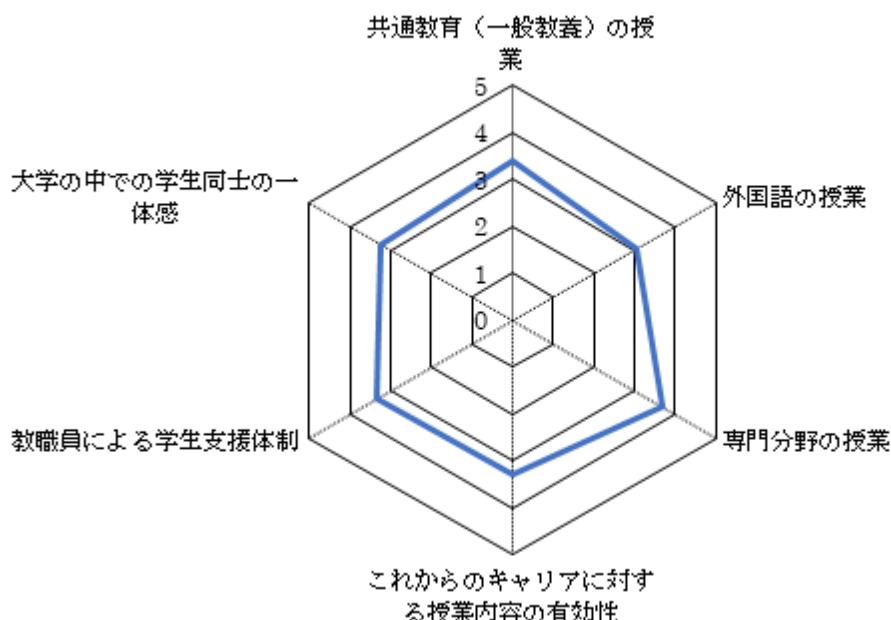


福山大学での学びを経て、入学前と比べて  
あなた自身はどのように変化したと思いますか



平成29年度福山大学での学修を振り返るアンケート集計結果

福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか



平成29年度福山大学での学修を振り返るアンケート集計結果